■算数の文章題は読解力で決まる

最初担任した１年生（昭和28年）に対しては、理科、社会科ばかりではなく、総ての教科用語を漢字表記に改めて教へました。それも、算数の“まる”“さんかく”“しかく”といふ用語を“円”“三角形”“四辺形”といふ高学年で使ふ用語を使って教へました。かうして教へますと、“角”や“辺”などの意味を理解することに依って、用語の理解が深く正確なものになります。

指導主事をしてゐた頃、先生方から「計算はよく出来るんですが、文章題は出来なくて困ります」といふ嘆きの声を聞きました。然し、私が１年生を担任してみますと、皆、文章題を喜んでやり、また、実によく出来ました。それで、「文章題がよく出来ない」といふ先生方の嘆きを疑問に思ふやうになりました。

所が、その３年後、１年生に対してかな表記のままで文章題をやらせますと、確かに文章題の出来が悪いのです。その上、子供たちも前の１年生のやうには文章題を喜びませんでした。それで、かなばかりで書かれた文章は読み難く、従って文章が解り難いので、何を問はれてゐるかが解らないので式が立てられないのだ、といふ事が判りました。

つまり、算数の文章題といふものは、文章を読んで式を立てるまでの仕事は国語科の読解に当ることをしてゐるのです。だから「計算は得意だが、文章題は苦手だ」といふ事は「算数の計算力はあるけれども、国語の読解力が弱い」といふ事なのです。